

（1）学習の状況と課題

- 1年** 小学校英語活動の影響で、英語を使った授業に慣れている。カタカナ語を中心とした語彙力もあるので、like, have, playなどを中心とした文を使って表現することはできる。それを読むことにつなげると、学力の差が表れる。
- 2年** 授業態度は良く、得意でない生徒も積極的に授業に参加している。英語での質問に対しても、考え、答えようとする態度である。宿題の提出率は約83%である。単元後の小テストの平均点も4月から比べると伸びてきている。しかし、再テスト該当者が毎回いるため、家庭学習の定着が課題である。また、アンケートから、授業を進める速度に配慮することや、文法解説の指導を工夫する必要があると考える。
- 3年** 意欲的に学習する生徒が多く、宿題の提出率は約95%である。都コミュニケーションテストでは文法、聞くこと、書くこと、読むことの全領域で平均点以上だったが、読むこと、聞くことをさらに伸ばす必要がある。授業アンケートから授業を進める速さに配慮し、教材をさらに工夫する必要があると考える。

（2）指導改善の観点（課題解決のための具体的な授業改善策）

- 1年** 音声を中心にパンプラクティスを組み込み英語の回路を作るようにし、ペアやグループを単位にコミュニケーションにつながる活動を行い、自己表現へとつなげる。4技能を統合する活動を入れ、定着を図る。
- 2年** 家庭学習の定着につながるような工夫をする。授業を進める速さに配慮する。文法解説の指導を工夫する。
- 3年** 聞くこと、読むことの指導を工夫する。授業を進める速さに配慮する。指導や教材の工夫を行う。

（3）指導方法改善のポイントと方策

- 1年** 新言語材料の導入は自然なコミュニケーションを意識して、目的や場面を設定して導入をし、英語を使う楽しさを感じさせる。スローラーナーにも配慮して、段階を踏んだ指導と個別指導も行い、生徒全員の力を上げるようにする。
- 2年** 宿題のチェック方法を工夫する。生徒一人ひとりの理解を把握しながら指導を進める。新しい文法を繰り返し聞いたり、声に出してインプットする機会を工夫する。ノートなどに書き写す時間を配慮する。
- 3年** 英語を聞く頻度を増やすと共に、聞くことの方略を指導する。読むことでは代名詞や副詞句などの読みとり、文と文の関係などを指導する。興味・関心を引く導入やワークシートの工夫を心がける。